

令和2年度 第2回スポーツ推進審議会 議事要旨

日 時	令和2年10月8日(木) 13:30~15:25
場 所	酒田市役所 第3委員会室
参 集 者	出 席/中條庸右委員、山岸文章委員、佐藤紀巳雄委員、齋藤 勉委員、 田中 学委員、上松由美子委員、角南俊介委員(リモート参加)、 大滝美樹委員、穂積 祥委員 事務局/教育長、次長、スポーツ振興課長ほか
配布資料	・次第 ・出欠席名簿 ・資料1 令和2年度スポーツ振興課における各種事業の実施状況 ・資料2 令和3年度の事業に向けた予算要求 ・資料3 スポーツ実施率の向上に向けて ・資料4 スポーツ実施率向上に係る「酒田市スポーツ推進委員会」の各種事業 ・資料5 子どものスポーツ夢・未来 発掘事業(概要) ※令和3年度新規要求事業

1. 開 会(略)

【事務局より会議の成立について報告】

・「酒田市スポーツ推進審議会に関する条例」第6条第1項により、審議会は、委員総数の過半数の出席が要件となっている。本日の審議会は、委員総数9名のうち、出席者9名(角南委員がリモートで参加)となっており、審議会が成立していることを報告する。

2. あいさつ(教育長)

・コロナの影響でスポーツイベントも軒並み中止になっているが、本日は令和2年度事業の実施状況の報告と令和3年度の事業について意見を賜りたいという趣旨で会を開かせていただいた。

・コロナの収束について確実な方向性が見えていない状況の中、市役所では来年度予算を検討しているところ。税収が減ることは確実。予算のパイは確実に小さくなる。事業のあり方も均等な縮図を作るだけでなく、メリハリのある優先度のあるものを見極める判断が必要になってくる。そこで基準となるのが、スポーツ推進計画だと思う。慎重審議をよろしくお願ひしたい。

3. 協議

(1) 令和2年度の各種事業の実施状況について【資料1】(資料に基づき、事務局説明) 質疑等特になし

(2) 令和3年度の事業に向けた予算要求について【資料2】

I 誰もが楽しめる生涯スポーツについて（資料に基づき、事務局説明）

【委員からの質疑・意見等概要】

- （委員）市民体育祭の内容を検討するための会は、どこを中心にして進めていくのか。来年度、コロナ禍でも開催にたどりつけようとするならば、早く動かないといけない。
- ⇒市民体育祭について、例年であれば4月に小委員会、実行委員会を開催して、スポーツ推進委員会三役、主催となる体育振興会三役、各地区体育振興会会長と協議をして、詳細について色々と決めていく流れである。現在、来年度の開催に向けて、各地区運動会の種目を調査している。競技性よりもレクリエーション的な種目を増やしていけないか、年内中をめどに課内で精査をしているところである。その後、スポーツ推進委員会三役、体育振興会三役、各地区体育振興会会長へ話をして来年度の方向性を決めていければ良いと考えている。予算も厳しい状況にある。その中で小学生の徒競走の見直し、昼食を準備しなくても良い時間に終われるようにと終了時間の見直しも考えている。また、学習バスやスクールバスが20台ほど準備できると担当課から聞いているので、例えば公民館地区からの参加についてはバスを準備することができないか、今後課内で検討していきたい。
- （委員）スポ少の現状として、加入率の低下は実際にある。小学生のスポーツでもスポ少だけでなく、色々なクラブチームがある。庄内町や鶴岡市へ通っている子ども達が多くなってきている。中学生になっても自分の学校の部活動に入らずにクラブチームで活動する子どももいることを耳にしているので、スポーツ担当課からも現状を知ってほしい。
- ⇒スポ少の加入率低下について、色々なクラブチームがあり、庄内町に加入している子ども達もいるだろう。特にサッカーは部活動に位置付けていないクラブ（モンテディオ山形ユース）で活動している子ども達もいる。そういった状況は、スポーツ振興課でも把握している。加入率の増加を考えた際に、まずは自分が何の種目に向いているのかを知ることから始められるよう、子どものスポーツ夢未来発掘事業を進めていきたい。
- （委員）評価の欄に「スポーツ推進審議会委員の意見」とあり、評価を自分たちスポーツ推進審議会委員がしているという印象を受ける。行政の立場として、この事業についてどういう評価をしているのか見えにくい。最終的にはアクションの改善が豊かになっていけばそれで良いのだろうが、ローテーションがずれこんでいるように見えて心配していた。
- （委員）国から部活動改革の話が出ている。令和5年度から土日の部活動を学校から地域へ移行するという動きがある。令和3年度から4年度の中で形を作りながら、乗っていかなければならないと思っている。中体連だけで進めていくことはできない課題なので、酒田市のスポーツを考える、この審議会の中でもいずれは話題にしていけないといけないと思っている。総合型地域スポーツクラブと結びつきながら考えていくべき課題だと思っているので発言させていただいた。

- （委員）総合型地域スポーツクラブの登録認証制度について、令和3年度からスタートする予定だったが、コロナの影響で令和4年4月1日から運用がスタートすることになった。全国、県、県内4地区、それぞれに連絡協議会がある。県、国へそれぞれ5千円を納金するとすると、合計1万円納金しなければならない。県への5千円だけでも財政的に厳しいクラブもあると思うので、総合型地域スポーツクラブの枠を外して、独自のクラブで活動するといった可能性も出てくると個人的には思っている。
- （委員）スポーツ少年団では、基本的には自分の入りたい種目が学区内であれば他学区へ入部することはできないという暗黙のルールがある。加入率アップだけのことを考えるのであれば、eスポーツもスポーツ少年団に加入すれば良いと思うが、eスポーツは本当にスポーツかという疑問は残る。
- （委員）資料の評価（チェック）の欄に記載ある委員の意見はあくまでも外部評価だと思う。行政としての内部評価はどうだったのか知りたかった。もっと遊べ酒田の子ども運動テキストの活用について、平成19年度から3か年実施した事業と聞いている。あれだけ中身が充実しているテキストを作成し、それ以降の検証はどうだったのか伺いたい。検証を無くして新規事業はないと思う。
⇒もっと遊べ酒田の子どもについては、「動き」について平成19年度から21年度までの3か年で測定を実施した。園児たちの動きに関して観察していったわけだが、中にはでんぐり返しができない子どももいた。平成26年頃、市内の保育園の園長先生方がスポーツ振興課を訪れ、もっと遊べ酒田の子ども運動テキストの内容について打ち合わせしたいと話があった。その後、当時実施した25園に対して、園独自で何か継続してやっているか聴き取り調査をした。テキストを活用しているところ、外部から幼児体育の指導者を呼んでいる園もあった。全てがそのままの形で継続しているのではなくて、形を変えながら実施している園が現状でもあることを報告したい。
- （教育長）評価（チェック）の中身について意見があったので、補説させていただきたい。行政のPDCAの回し方を教育委員会内でも、ちょうど整えている最中である。どのタイミングで、どういう評価をして、どの方々から意見を聞いて組み立てていくか。内部チェックは当然実施しており、相当量の資料がある。各事業の評価も議会に報告はしているし、公開もしている。教育委員会内で実施している評価についても、今後整えていくべきと私も同感である。事業の評価としては、事業をする前に評価を立てておくことが必要。即効性があるものもあれば、即効性のない評価のものもある。即効性が求められると答えにくいものもあるが、評価の部分は整えていくべきである。審議会の役割がチェックと建設的な方向に向かう意見交換の色彩を帯びてくると思うので、教育委員会としても整えていきたい。
- （委員）もっと遊べ酒田の子ども事業を実施した時には、自分たちもまだその事業を実施する意味をあまり認識していなかった。身体を使っていっぱい遊んでいるようであっても、各部位を意識した遊びではなかったため、子ども達を観察すると転びやすい、危険回避能力の低下を感じた。その後、外部講師を呼んで、月謝を取って希望者を募って

教室をやっている園も多く出てきたように思う。色々な部位を動かすことによって身体の機能が発達していく。仙台市や山形市から講師を呼んでいる園もあるようである。

- （委員）情報提供の意味合いで話をしたい。就学時健診で視力の判定がD判定の子どもが多く、視力の低下が進んでいるのに驚いた。聴力も電子音以外を聞き取れない子ども達が多くなっていることに危機感を覚えた。小さいときに親子でコミュニケーションを取って遊ぶことの大切さを伝えていくべき。
- （委員）スポ少に関する体力テストの評価方法が変わった。今までは時間走、距離、速さなどで計測していたが、目で見て評価するものになった。跳ぶ姿勢を見ての評価、ボールを投げる形を見ての採点。スポ少本部としては、来年度から身体の動きを見て評価する方向に変えていく予定。

Ⅱ 感動と活力に満ちた競技スポーツ（資料に基づき、事務局説明）

【委員からの質疑・意見等概要】

- （委員）指導者養成のための研修内容で「アスリートの栄養・食事」「スポーツ心理学」とある。非常に賛成。広く学校等を通じて周知をして、興味ある人に聞いてほしいと思った。スポーツに取り組む意欲付けには大変良いテーマだと思う。
- （委員）スポーツ推進計画に、レイズド・イン・ファン・サカタの選手育成の項目があり、「全国（世界）レベルで活躍する選手の継続的な輩出に向けて、地元指導者の手によるジュニア選手の一貫した指導体制を構築していきます。」とある。ソフト面の強化をどう考えているか。
⇒レイズド・イン・ファン・サカタは競技スポーツの部分になる。白崎資金を活用した指導者養成事業を体育協会へ委託しているが、体育協会の協力なくして競技力向上はない。一貫指導体制の構築について、競技団体や連盟にお願いしなければならないことだと考えている。体育協会と一緒に進めていければと思う。
- （委員）色々な競技団体があるので、指導体制をまとめて一本化するのは難しい。これからはますます少子化が進み、単独で部活動、大会参加ができない状況になってくると思われる。そういった状況では絶対必要になってくる部分だと思うので、ぜひ検討いただきたい。
- （委員）冬季スポーツの振興という意味合いで、酒田市にはスワンスケートリンクがある。スケートはイベントや大会などしているものか。
⇒市長杯の大会が毎年ある。令和2年はコロナの影響か、参加者が少ないという理由で中止になったように記憶している。基本的には、大会は競技団体が主催運営するものである。全庄内スキー大会は、松山町時代から継続支援してきた大会である。通常であれば競技団体が開催する大会には補助金は出していない。市が主催して競技大会をすることはほとんどないので、承知願う。

Ⅲ スポーツによる賑わいとまちづくり（資料に基づき、事務局説明）

【委員からの質疑・意見等概要】

○（委員）つや姫マラソンについて、来年度は10回大会となる。市民が自分たちも大会に参加している感覚を持つために、大会Tシャツのデザインを公募するなどしても楽しいかと思う。コロナだから中止とするのではなく、例えば県内参加者に限定するなど、参加人数を制限してでも工夫しながら多少なりとも記念大会ができるように進めていただきたい。

⇒担当としては、基本的には酒田へ来ていただいて、コースを走ってもらいたいと思っているので、何とか開催できるように進めていきたい。

○（委員）ランナーよりもボランティアや医療従事者等のスタッフの健康管理や感染対策をしっかりとしていかないと大会開催は難しいと思う。

Ⅳ 安全安心なスポーツ活動のための環境整備（資料に基づき、事務局説明）

特に意見等なし

<全体を通して>

○（教育長）部活動のあり方に関わる非常に大きな動き。先日、庄内の教育長会議があった際に、庄内教育事務所の方から、ある中学校の事例が紹介された。方向性としてどうなっていくか現段階では掴めていないので、引き続き国や県の動向を踏まえて検討していきたい。県も現在検討しているという情報も入ってきているので、それを受けて、この審議会や中学校、総合型地域スポーツクラブへ伝えて話題にしていきたいと思っている。以前より委員から、総合型地域スポーツクラブの方向性について検討してくれと意見を頂戴していた。そういう経過もあるので、地域の力で子ども達を育てるという観点がどうあれば良いのかという視点になってくると思う。単に先生方の多忙化解消だけの問題ではない。文化部も含めて部活動の指導体制を、どういうふうに日本は作っていけば良いのかという問題になってきている。今後も皆さんと情報を共有しながら方向性を探していきたい。

○（委員）子どものスポーツ夢未来発掘事業は、とてもおもしろい事業だと思うが、スポーツの能力を考えると、平均値にいる子どもが圧倒的に多いのが当然のこと。平均値より秀でている選手がプロになったりする。序列を付けていくよりも、個人の中でどう伸びてきたのか、何が足りていないか検証していくことが、これからの運動評価（体力評価）になってくると言われている。運動が継続できていないのは、何が問題なのか個人の中で見ていくことが大切。この事業の中で個人にフォーカスして、最初はアンケートで構わないと思うので、問題点を洗い出していくのに良い事業だと思った。

○（委員）スポーツ推進計画の4つの目標の中で、1（2）にスポーツ医・科学という文言、

2 (2) にスポードクターやトレーナー等と連携して、医・科学トレーニングという文言、4 (3) にスポーツドクターとの連携という文言がある。この審議会の冒頭のあいさつの中で、教育長もスポーツ医・科学について整備していきたいと力説されていた。スポーツ振興の一部分だが、いずれは今後整理され具現化されていくのではないかと期待している。今、スポーツ医・科学の面でどのような状況になっているか伺いたい。

⇒計画自体は、市でやるものが全てではない。例えば、外郭団体のスポーツ少年団、体育振興会、スポーツ推進委員会、もちろん体育協会でも自ら実施していただきたいと考えて計画を策定している。子どもに対するスポーツ医・科学、スポーツドクターについては、スポーツ少年団やスポーツ推進委員会の研修会で実施されている。ただし、競技ごととなれば、競技団体へお願いするしかないので、その調整を体育協会中心に図って頂ければありがたい。

○ (委員) 行政としてリーダーシップを発揮するべきところもあると思う。それが全て体育協会というのは少し違うと思う。

○ (教育長) 頑張りすぎる子ども達、頑張らせられすぎる子ども達が、実は身体を壊していることにしっかり目を向けないといけない。指導力のある指導者は、練習は長い時間ただすれば良いということではない、と話している。指導方法を見直す良いきっかけになっていると思う。そのきっかけとなるのが、スポーツドクター等からの専門的な知見を活かすことになると思う。具体的な進め方については今後検討していく。競技ごとの指導者を対象にするのか、スポ少の全体的な会で講演会を開くのか。意見を伺いながら、サポートできるように準備していきたい。

○ (委員) スポーツ推進委員に求められているものとして、総合型地域スポーツクラブとの連携、地域の高齢者にニュースポーツを教えることに加えて、地域の小中学校の活動にも協力することが求められている。どのように進めていけばよいか悩むところだが、この会で皆さんからの意見を伺いながら協力を頂きながら進めていきたいと思っている。

⇒小中学校のクラブ活動への支援ということで出前講座を実施してきた。地区のスポーツ推進委員が中心となって申し込みのあった小学校へ出向き、ニュースポーツに関する指導というか遊び方を教えてきた経緯がある。ただ、毎回スポーツ推進委員も学校訪問できないこともあり、継続して取り組んでもらえるようルールを先生からしっかり覚えてもらうようお願いしていた。今後も、学校から問い合わせがあれば、地区のスポーツ推進委員へ声掛けをしていきたいと思うのでよろしく願いたい。

○ (委員) 総合型地域スポーツクラブとしても地域に溶け込んで、子ども達にスポーツの楽しさを推奨していきたいと思う。地域で子ども達を育てていく面で、総合型地域スポーツクラブを交えて部活動のあり方を検討していければ大変ありがたい。

(3) スポーツ実施率の向上に向けて (資料に基づき、事務局説明)

【委員からの質疑・意見等概要】

- （委員）スポーツに関して、分かりやすい言葉がないか考えるときがある。例えば、「早寝早起き朝ごはん」のように。スポーツを愛する、スポーツは大事ということがストレートに分かる、例えばステイホームのような酒田市オリジナルな言葉や標語などないか。もっと身近に感じられる機会を考えたときに、標語を募集するなどしてはどうかと思った。
- （委員）標語の募集は、小学校の夏休み前に結構集中しているようである。ただ、子ども達から出てくれば、スポーツがより親しみやすくなると思う。
- （委員）小学生のスポーツ実施率について、スポーツをしていないと回答した子ども達はなぜしないのか、突っ込んだデータはあるものか。
⇒スポーツ推進計画の冊子の最後の方に資料編を掲載しており、その中に「運動・スポーツを実施しない理由」を掲載しているので参照いただきたい。最も多い理由としては、「やりたいスポ少・部活動がない」で、次に「運動がきらい、または苦手」「友達とゲームなどで遊びたい」が続いている。
- （委員）スポーツが嫌いな子どもは一定数いると思っていたので、仕方がない。大人も同じ。そういった層を除いて設定基準（目標値）を定めていくことが現実的だと思う。

（４）その他

特になし

4. 閉 会（略）

以上